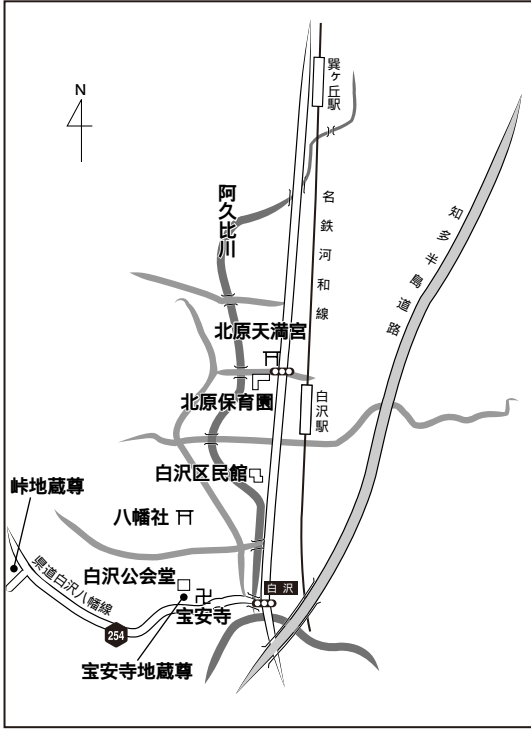


アグイがわたりマスヨウニ



シリーズ

阿久比を歩く ⑩



通称「抱き地藏」と呼ばれる「峠地藏尊」

白沢地区宝安寺の「地藏尊」と峠の「地藏尊」を探しに出掛けた。子どもたちは夏休みに入ったが、「梅雨明け宣言」はまだない。今日もはつきりしない天気。どんよりとした曇り空で蒸し暑い。宝安寺を訪ねると、本堂を建て直した中で、境内は「トントントン」と勢いのある金つちの音が響く。西側にそろいの赤い前掛けをした十体の石造が並ぶ。その中に「地藏尊」が

石造物を巡る(板山・福住・白沢コース⑩)



交じる。文化財調査報告によれば、「地藏尊」には、右 半田 もろさき、左 ありわけ 亀さき と記され、道路改修の際に宝安寺境内に集められたもので、元の安置場所は不明。地藏の両脇には道を示す文字が読み取れる。道ばたに置かれた地藏尊を「辻地藏」と呼び、道しるべの役割を果たす。優しい顔の表情が印象的だ。道先案内役を終えた安堵感だらうか、静かに世の中を眺める。宝安寺を後にして、峠の「地藏尊」を目指す。別れ道の一角の小さな堂に「地藏尊」がまつられる。民家を訪ねて地藏尊にまつわる話を聞く。その昔、峠に休憩する茶屋があり、その場所に「辻地藏」として置かれていた。時代が流れ、道しるべとしての役割を果たさなくなると地藏はないがしるにされる。地元で不幸なことが続いたときに、刈谷市へ嫁いだおばあさんから「草むらで眠るお地藏さん」を大事にしたらどつだろ」と助言を受ける。堂の中に安置

して、みんなが手を合わせるようになってから、不幸が不思議と起こらなくなつたという。現在は近くに住む七件の家が順番で地藏尊の世話をする。八月と二月の年に二回「地藏祭り」を開き、祭り当日には団子やお菓子を供えて、お年寄りや子どもたちが念仏を唱える。地元の人は、通称「抱き地藏」とも呼ぶ。願いごとをするときに地藏を抱き、「軽い」と思った場合には願いごとがかなうらしい。「子どもが病気をしたときは、お地藏さんを抱かせます。不思議と治るんですよ」と女性が笑顔で話す。今まで不思議そうに話を聞いていた友人に「君もお地藏さん抱かせてもらえば」と私が言つと、「もし願いごとをして重かつたら、怖いのでやめときます。科学では証明できないことが本当にあるんですね」と首をかしげる。梅雨明けはまだだろつつか雨が降り出してきた。



宝安寺西側に安置される「地藏尊」